

ワークショップで広瀬川再整備計画を検討しました

第1回



整備の必要性を考えるため、広瀬川周辺でやりたい活動や行動を書き出しました。

第2回



3つのエリアに分けてエリアのテーマごとに整備内容や活動を提案しました。

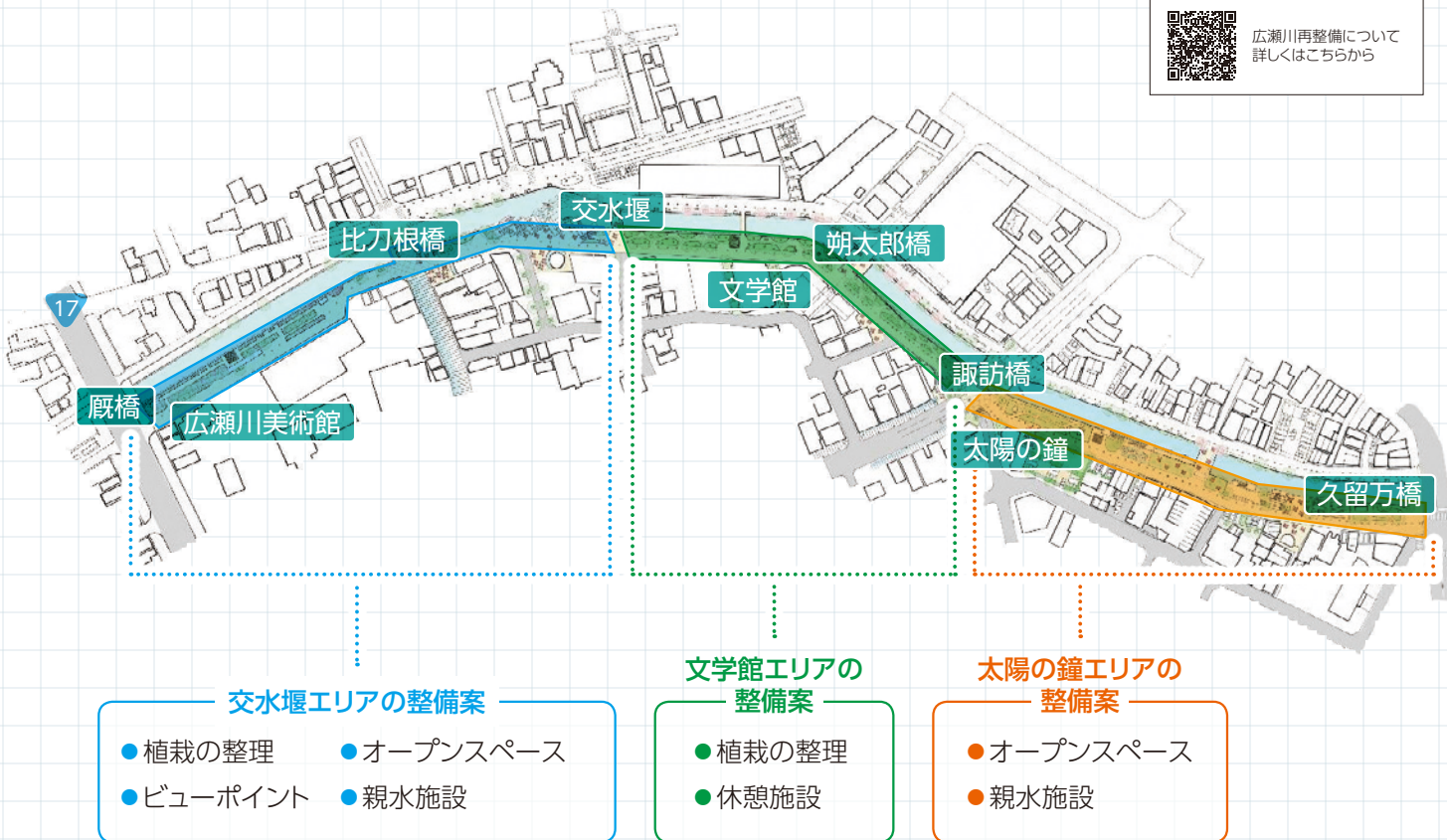
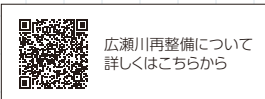
第3回



これまで検討した内容の将来への展開を考えました。



7月7日に開催しためぶくフェスでワークショップの報告会を行いました。



再整備の範囲は厩橋から久留万橋までです。ワークショップではこの範囲を「交水堰エリア」、「文学館エリア」、「太陽の鐘エリア」の3つのエリアに分け、それぞれに整備の方向性を議論しました。その結果示された整備案は上記のとおりです。

全エリア共通の整備案としては歩道と車道を一体化させることや休憩施設の設置、照明設備の設置などがあります。また、再整備にはレンガなど前橋と関連のある素材を使用することや、芝生を整備することなどが検討されました。そして、将来的には河畔緑地と周辺道路、沿道の建物を一体的に活用できるよう整備し、個人の日常的な利用の他、さまざまなイベントやコミュニティ活動に利用できる場とすることを目指し、本年度より工事に着手します。

アーバンデザインで描かれている将来像はまちづくりの方向性を示すものです。この方向性に沿って、広瀬川再整備計画のように民間主体のまちづくりを発展させていきます。

前橋市アーバンデザインで策定 まちづくりの3つの方向性

エコ・ディストリクト

都市の便利さと自然と暮らす居心地の良さを兼ね備えたまちづくり



エコノミー
(にぎわい)



エコノミー
(便利)



エコロジー
(居心地)



エコロジー
(健康的)

ミクストユース

住居・職場・商店・学校など複数の用途が混在したまちづくり



住む



働く



買う



学ぶ

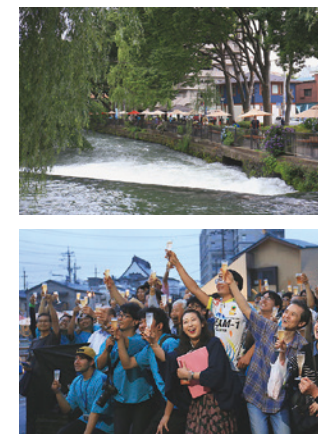
ローカルファースト

地域固有の資源を最大限活用したまちづくり



中心市街地が多様な活動を繰り広げられる場となるために、前橋市アーバンデザインでは、「エコ・ディストリクト」、「ミクストユース」、「ローカルファースト」といったまちづくりの指針となる3つの方向性を定めています。また、これらの方向性を踏まえた長期ビジョンを策定し、建物、街路、オープンスペー

スにつながるのあるまちを目指すことをイメージ図などを使い定めています。そして今後は、ケヤキ並木通りのさらなる活用や民間主体のまちづくり組織の立ち上げ、広瀬川河畔緑地の再整備などの実現に向けてさまざまな動きを進めていきます。



アーバンデザイン実現への取り組みは効果の高いエリアから先行して進めます。現在、活発な取り組みが行われているのは広瀬川河畔緑地の再整備です。

広瀬川は、多くの文化人に愛された場所であると同時に、明治時代からその豊富な流水を動力源にエネルギーを創出。周辺では養蚕製糸業をはじめとする工業が栄え、まちの繁栄の起点となりました。

現在の広瀬川でも、その流水を生かしてリバーレースを行ったり、景観を生かし水辺での乾杯イベントを行ったり、広瀬川を活用したさまざまな取り組みをしています。広瀬川周辺は整備され、散歩道としても親しまれている場所ですが、オープンスペースが少ない、歩行者の動線が制限されている、通り抜け車両や路上駐車が多いなどの課題もあります。それは、広瀬川の持つ能力をまだ生かす余地があるということ。中心市街地に位置する広瀬川周辺の再整備を行うことで、市街地のにぎわい創出を図ります。

アーバンデザインの実現へ 広瀬川を生かしたまちづくり